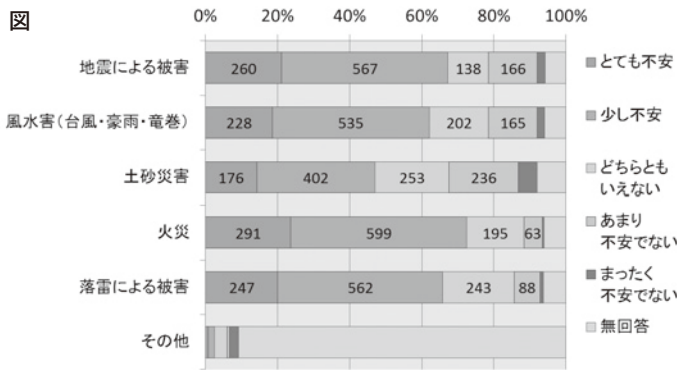


みんなできてるセーフコミュニティ

秩父市では、世界基準の安全・安心なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの国際認証を取得しました。今回は、災害時の安全向上についての活動をご紹介します。

秩父市は比較的災害の少ない地域ですが、セーフコミュニティ活動の一環として実施したアンケートによると、災害への市民の不安は大きいという結果が出ています。



出典：秩父市安心・安全なまちづくりアンケート（平成25年）



避難経路確認ワークショップの様子

災害時の安全対策委員会の活動
市内には、埼玉県が指定する土砂災害危険箇所が800箇所以上あります。土砂災害は突発的に発生し、一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまうものです。日頃からの備えが大切です。そこで、対策委員会では、久那地区をモデル地区として、土砂災害時の避難経路の確認をワークショップ形式で実施しました。土砂災害は一定の区域内に被害が集中する部分的な災害ですので、危険区域から安全な場所までの避

大雪への対策
平成26年2月に98cmの積雪を記録した大雪では、山間部を中心に多くの集落が孤立し、道路上では多くの車が立ち往生しました。また、今年1月の大雪も、交通や日常生活への影響が出ました。これを受けて、情報の共有・発信体制の整備や、除雪の出動基準、配備体制の見直しを行っています。また、市内の幹線道路などを結ぶ優先除雪路線図を作成し、市HPで公開していますので、ご覧ください。

難経路が重要です。ワークショップでは、明治大学の協力のもと、まず危険区域と、避難場所の確認をした上で、避難する際の経路と避難に要する時間を地図上に記入します。そして、土砂災害の危険が高いと予想できる場所や、土砂などで避難経路が遮断される危険箇所などを話し合いました。検討の結果、地区ごとに安全な避難経路を地図にまとめ、情報共有しました。参加者からは、「安全に避難できる経路がわかって安心した」「早めの避難が大切だと思った」「作成した地図を、防災訓練に活用したい」などの感想がありました（写真）。引き続き、久那地区での避難経路確認を実施するとともに、ほかの地区へも広げていきたいと考えています。

この協定は、秩父地域で大規模災害による傷病者が発生した場合に、専門的な技術や知識を持つ医師、歯科医師や薬剤師を派遣していただき、医療救護活動を行っていただく内容となっています。市では引き続き、各分野の協力度体制の整備を積極的に進め、防災対策に万全を期してまいります。



2月19日、ちちぶ医療協議会を構成する市町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、秩父町）と秩父郡市医師会、秩父郡市歯科医師会、秩父郡市薬剤師会のそれぞれで「災害時の医療救護活動に関する協定」を締結しました。

「災害時の医療救護活動に関する協定」を締結しました

今後も、災害時の安全向上のため、関係機関と連携して、対策委員会での検討を進めたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。